

第6分科会 健康安全

分科会テーマ ふるさとの食育の在り方

研究内容 子どもたちの健康な心と身体を育む食育

現状と課題

子どもの健やかな成長には「よく体を動かし、よく食べ、よく眠る」ことが大切です。しかしながら、近年このような成長期の子どもの基本的な生活習慣が大きく乱れ、その乱れが学習意欲や体力、気力の低下の原因の一つとして指摘されています。子どもの生活習慣に家庭が果たすべき役割は大きいところですが、一方で、食を通じた地域への理解や食文化の継承、自然の恵みや勤労の大切さという視点から、大人一人ひとりが意識して取り組むべき問題でもあります。子どもたちや地域での取組を通して食と健康について考えます。

討議の視点 ○ 家庭における食の現状と課題、その解決策
○ 地産地消、郷土料理の大切さ

基調講演



講演題名 ふるさとの宝を受け継ぐ高校生の食育活動と多世代連携

基調講演者名 江本 一男
所 属 山形県立置賜農業高等学校実習講師
NPO法人えき・まちネットこまつ理事長

プロフィール

山形県立置賜農業高等学校実習講師（NPO法人えき・まちネットこまつ理事長）

昭和48年から置賜農業高校に奉職し、50年から28年間、同校野球部監督を務める。同時に研究発表等の指導を行い、日本学校農業クラブ全国大会で同校生徒が3回の日本一・文科大臣賞を受賞する成果を収める。また、平成22年には指導する生徒グループが3R推進功労者等表彰で内閣総理大臣賞を受賞。平成24年に早期退職をし、まちづくりNPOの法人化に奔走し、26年に法人化を実現し理事長就任。同年から再任用で高校現場に復帰して、川西町の伝統野菜「紅大豆」を活用した食育活動や商品開発を指導し、現在に至る。平成27年度あしたのまち・くらしづくり活動賞内閣総理大臣賞受賞。66歳。

講演内容

東北地方は日本の食糧基地であるとともに、豊かな食文化を有する。また、連綿と伝え継がれてきた伝統野菜も多く、それらはふるさとの宝とも言える。しかし、少子高齢化や核家族化の進展に伴い、これらの伝承は先細りの状態である。ここでは、川西町の伝統野菜でもある紅大豆に着目し、これの栽培や加工に取り組みながら、豆料理の伝承や開発に取り組む高校生が、豆を使った紙芝居や人形劇などの食育活動にも取り組む姿を紹介する。そして、郷土料理や地元の食材を高齢者から学び年少者に伝える多世代連携の姿から、家庭や地域が取り組むべき食育の在り方を考えたい。

- ①導入……自己紹介。食育とは、食育基本法がめざすこと
- ②置賜農業高校生の取り組み……地域の中での役割を自覚し地域のために活動する高校生（地産地消、伝統料理講座や教室、食育ミュージカル、人形劇、紙芝居など…食育人形劇をご覧ください。）
- ③NPO法人としての取り組み……次世代育成や青少年育成をまちづくりの観点から
- ④川西町立小松小学校つながる食育推進事業……児童や家庭の現状と地域との連携
- ⑤多世代連携と域学連携（学校・家庭・地域連携）で子どもは健やかに育つ
- ⑥ふるさとの宝を誇り学び合う地域の姿が地域創生や若者定住を実現させる……高校生の将来の夢をお聞きください。（ふりかえりに代えて）

子どもたちを取り巻く情報化・高速化・国際化・高齢化の波の中で、人間として生きていく上で不易なもの一つに「食」がある。水や空気や光という自然の恩恵を受けながら、育ち稔った生命を「いただいている」という食の根幹を、農村文化が根付く東北だからこそ伝承していかなければならない。そのために、食育という観点から何をしていくか、何をすべきか等を、ご参集いただいたみなさんと共に考えていきたい。

- ・家庭における食育は、親の姿勢が必ず子どもに伝わるので、タイミングを見ながら継続的に行うことが大切である。
- ・東北地方は豊かな食文化に恵まれている。できることから良いので地域の食材や伝統料理をPTA活動や家庭の食生活に取り入れていってはどうだろうか。
- ・多世代にわたって食の大切さをつなげていければ良いのではないだろうか。



コーディネーター	江本 一男	山形県立置賜農業高等学校実習講師 NPO法人えき・まちネットこまつ理事長
パネリスト	澤谷 政和	青森県上北郡横浜町立横浜小学校PTA 会長
	庄司 和孝	仙台市PTA協議会 副会長
分科会運営責任者	伊藤 明芳	山形県西置賜郡小国町立小国中学校PTA 平成30年度副会長
	外崎 浩司	青森県PTA連合会 会長
分科会会場責任者	神尾亜希之	山形県東置賜郡川西町立小松小学校PTA 副会長
会場		山形おきたま農業協同組合 多目的ホール (川西町)